

No.J2210

「現代イースター島社会におけるラパ・ヌイ文化の尊厳に関する民族誌的研究」

麗澤大学国際学部 准教授

内尾 太一

本研究は、国際的な観光地として発展してきたイースター島での文化と尊厳の関連性に焦点を当てている。この調査では、デジタルアプローチとフィールド調査の二つの方法を採用した。

デジタルには、Hyphe というウェブクローリングツールを利用してラパ・ヌイの先住民権を主張する国際団体のネットワーク構造を抽出した。さらに Python で作成したプログラムを作成して Google Maps 上のイースター島の情報を収集し、観光者がどの場所に関心を寄せているかを可視化した。

2023年2月のフィールド調査では、まずコロナ禍の経験に注目し、島民50人に対する質問票調査と、うち数名へのインタビュー調査を実施した。観光業に就く40人中、75%はロックダウン中に収入が半分以下になったと回答した。

しかし、聞き取りの結果、彼らは土地に野菜や果物を育て、物々交換を行うなどして、その困難を乗り越えていたことが明らかとなった。この事実は島の文化の潜在力を強く示している。一方、政府の緊急雇用創出事業を利用する島民も多く、国民国家による社会保障の重要性も改めて確かとなった。

また、尊厳に関連するラパ・ヌイ語の調査も行なった。“taupe”という単語が尊厳を意味すると既刊のラパ・ヌイ／英語辞書に記されていたが、現地協力者からそれはタヒチ語でありラパ・ヌイ語ではない、との指摘を受けた。代替する語として、“mo’a”という尊敬を意味する単語を教わった。これは前述の辞書にはない語であったが、「ラパ・ヌイの文化に敬意を払う」といった表現で日常的に使用されるという。

上記の調査を通じて、現代イースター島を取り巻くグローバルな状況を把握するとともに、コロナ禍でのラパ・ヌイ島民のローカルなレジリエンスを掴むことができた。その時に語られる現地の語彙とその背後にある価値観をより深く探求することで、文化と尊厳をつなぐ理論への貢献を果たしていきたい。